

平成28年度 学校評価報告書（国立市立国立第八小学校）

学校教育目標	よく考え、進んで行動する子ども 仲良く助け合い、よく働く子ども 健康でたくましい子ども	重点目標	よく考え、進んで行動する子ども
--------	---	------	-----------------

学校教育目標	基本方針	指導の重点	評価指標	達成状況		成果と課題	各分掌等の検討策等	平成28年度学校関係者評価
				中間評価	最終評価			
健康よく考え、たくましく進んで行動する子ども（重点目標）	知・徳・体の調和的な向上	個に応じた指導、ICTやティーチングアシスタント等の活用を行い、児童一人一人に確かな学力を身に付ける。 【基礎的・基本的な学力】	<ul style="list-style-type: none"> ●課題別指導、習熟度別指導、補充・発展的な学習など指導形態を工夫したり、ICTやティーチングアシスタント等を活用したりして、児童の基礎的・基本的な学力の向上を目指す。 （ノート指導、東京ベーシックドリルの活用、タブレット活用） ※東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」A問題の結果（国語・算数）、全都平均正答率との差から見取る。 	（7月/5年国語） 都の平均よりかなり高い	（1月/5年国語） 7月と同等	<ul style="list-style-type: none"> ・「教科の内容」（基礎的・基本的な内容）については、7月から1月までの約半年で変化がそれほど無かった。7月の段階で、都の平均よりかなり高い値を示しているため、数値として上がりにくいと判断する。身につけさせるべき基礎的・基本的な知識や技能をはっきりさせ、確実に定着させるように指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用等をしながらか児童にとって理解しやすい授業を工夫し、展開していく。 ・全員に基礎的・基本的な学力の定着を徹底させる。東京ベーシックドリル等を活用し、能力別に家庭学習させるなど、個に応じた指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の評価が向上したのは、職員室の良い雰囲気がか子供に伝わっているからではないか。今後も、その良い雰囲気を維持してほしい。 ・授業を見ると、昨年よりさらに落ち着いている。 ・ICT機器としてタブレットをどのように活用しているのか？→主に調べ学習に使用している。子供達が自らビデオ撮影し、すぐにテレビで確認することもできる。
		理科・生活科の校内研究を通して、体験学習や問題解決的な学習を進め、自ら課題を見つけ出し意欲的に追究できる態度や社会の変化に主体的に対応する能力を育成する。 【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ●必要な情報を正確に取り出す力、比較・関連付けて読み取る力、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力をもった児童を育成する。そのために、アクティブ・ラーニングの視点を意識した指導を行う。 ※東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」B問題の結果（理科）、全都平均正答率との差から見取る。 	（7月/5年理科） 都の平均とほぼ同じ	（1月/5年理科） 7月より大幅増 都の平均よりかなり高い	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み解く力に関する内容（思考・判断・表現）」については、7月よりかなり良い結果が表れた。 ・日頃から理科に限らず思考力・判断力・表現力を培うよう学習を工夫している。繰り返すことで児童が自ら考える技を身に付けてきているのではないかと判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの自然体験や生活経験をさせることで、学習したことと身の回りの事物を比較したり関係づけたりする力を養う。 ・読書をする時間を確保し、長い文章でも読みこなす力を向上させる。 ・思考力・判断力・表現力を培うようにアクティブ・ラーニングの視点を意識して全ての学習を行い、さらに校内研究を深めていく。その成果を1月に自主発表する。 ・指導すべきこと（知識・理解、技能等）と考えさせるべきことを分け、身の回りの事象に関する発展的な学習を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングとはどのような学習か？→子供たち自らが主体的に学習に取り組み、友達と対話しながら、深い学びを追究する学習。 ・自然体験や生活経験をさせることは大切。
		児童の発達段階を踏まえ、体力の向上を図り、健康的な生活習慣を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ●一校一取り組み（木曜中休みのパワーアップタイム）を通して、児童一人一人の体力向上を図る。 ※昨年度の体力テストで課題の残った握力の数値で評価（5月時と1月時で比較） 	（昨年度到達率都の平均に比べかなり下回っている）	（今年度到達率） 学年によっては改善が見られる	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップタイムでの継続的な取り組みによって、全学年で反復横跳びの数値が都平均を上回ることができた。 ・都平均を下回っている内容については、運動の仕方を理解させたり、コツをつかませたりしながら高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回パワーアップ週間を設け、各学年の実態に合わせたためあてをもたせ、集中的に運動に取り組みさせる。年間を通して段階的に各観点が増えるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日運動した方が、体力が向上される。パワーアップタイムとパワーアップ週間と両方あるのか？→今後の検討。 ・運動のイベントは増える。 ・学校生活アンケートを数多く行っていただき数値が向上してきているので、生活面についても改善してきていることが分かる。
教育課題への対応及び学習環境の充実	開かれた学校づくりと安全対策の充実	全校児童の健全育成及び基本的な生活習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●年3回「学校生活アンケート」を行い、全体に周知が必要とみられる件については具体的内容を報告し、子供たちが安心して過ごせる学校づくりに努める。 ※いじめの早期発見、組織的な対応に努め、教職員の自己評価、児童のアンケートで肯定的評価80%以上を目指す。 	6月→9月 ・友達で悩んでいる14%→7% ・クラスの友達で乱暴なことをされている人がいる19%→5%	11月→1月 ・友達で悩んでいる10%→6% ・クラスの友達で乱暴なことをされている人がいる8%→4%	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と11月はふれあい月間として、学校生活アンケートを実施。さらに、今年度は、学期の初めにもアンケート調査を実施し、子供たちの様子を観察し、必要な場合は、個別に面談をしてきた。その結果、6月の結果と1月の結果を比べると友達で悩んでいる児童の数は減った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回のアンケートを実施することで、教員がタイムリーに子供たちの実態を把握することができた。また、子供からの情報を得ることで、友達関係などをきめ細かく観察することができた。 	
		特別支援委員会やケース会議の充実を図り、児童個々の問題解決に組織的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ●特別な支援を必要とする児童のニーズに応じて、学校全体で組織的に対応し適切な支援を行う。 ※組織的に対応した児童の数80%以上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的に対応した児童の数100% ・保護者と児童のニーズについて課題を共有できた数60% 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的に対応した児童の数100% ・保護者と児童のニーズについて課題を共有できた数66% 	<ul style="list-style-type: none"> ○新たに相談の申出…3名 ○通級指導開始…3名 ○特別な支援の終了…1名 ○医療措置…1名 ●継続相談…3名 ●上記以外にも、特別な支援を必要とする児童がいるが、保護者との相談に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回ずつ相談支援連絡会を行い、全学年（副校長、全担任、特別支援教育コーディネーター、スマイリースタッフ等）で情報を共有し合うことができた。 ・上記以外に、必要に応じてケース会議（校長、副校長、担任、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等）を行った。 ・継続相談及び相談に至っていないケースについて、保護者会や個人面談等の機会を通して、適切な支援について根気強く働きかけていくと共に、組織的に担任をサポートしていく体制を整える。 	
		避難訓練や安全指導の充実を図り、児童自身が安全な生活を送るために必要な事柄を理解し実践する態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月1回避難訓練と安全指導を実施し、年に1回不審者対応訓練を行う。 3学期には、毎月予告なしの避難訓練を行い、児童自身が危険を予測し回避する能力を身に付けられるようにする。 	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは、どんな訓練においても、とても落ち着いていて安全に行動できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の予定として、保護者による引き取り訓練を4月に実施する。また、夏季休業中に警察の方を講師に招き、職員対象とした不審者対応訓練を実施する。 	
学校公開での様子を見ていただき、学校の教育活動について理解を得られるよう努力を続けていく。	<ul style="list-style-type: none"> ●学校公開日の来校者数を増やすよう努める。 ※（児童数（283名）に対する来校者数。延べ人数） 	5月（土）466人 6月（金）131人 6月（土）387人 7月（土）347人 9月（土）381人 11月（土）701人 1月（土）386人 2月（金）109人		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の数字がないため、比較はできないが児童数に対して1人以上の来校者をしていただいている。 ・金曜公開での来校者がなかなか伸びないため土曜公開を一回増やし、金曜日の公開を通常の授業日とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜公開の日を一日増やし、授業や子供の様子を見ていただく機会を増やす。 ・二中吹奏学部とコラボして、演奏会を学校公開日に設定しようと考えている。卒業生やその保護者の方などより多く来校していただけるよう内容も工夫していく。 ・展覧会の日と道徳地区公開講座を同じ日に設定し、作品鑑賞していただいた流れで授業も見ていただけるようにする。 			